

辛みのないシシトウ‘ししわかまる’の仕立て技術の確立

背景

農業試験場 栽培部 橋本 拓真

県が育成したシシトウ‘ししわかまる’は、遺伝的に辛みが全く発生しない全国初の品種ですが、慣行品種‘葵ししとう’と同じ栽培管理（N30kg/10a、全枝放任）では草勢が低下しやすく、それに伴って収量や可販果率が劣ります。ここでは、誘引および整枝といった仕立て方法が‘ししわかまる’の収量や品質に及ぼす影響について報告します。

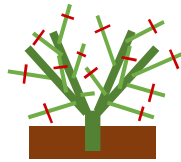


‘ししわかまる’

仕立て方法の検討

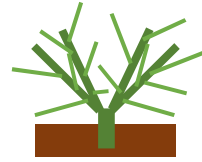
供試品種：‘ししわかまる’（①、②、③）
 対照：‘葵ししとう’（慣行、④）
 耕種概要：2022年4月21日定植
 畝幅160cm 株間70cm
 施肥：基肥 有機配合 5kgN/10a
 追肥 55kgN/10a（④のみ25kgN/10a）
 1回あたり1.25kgN/10aを1週間に2回（④1回）程度液肥で施用した
 収穫期間：2022年5月24日～10月28日

①側枝3節



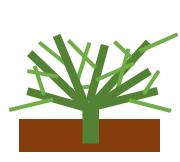
4本の主枝を上から紐で吊り上げ、
 ・側枝を3節で摘心

②側枝放任



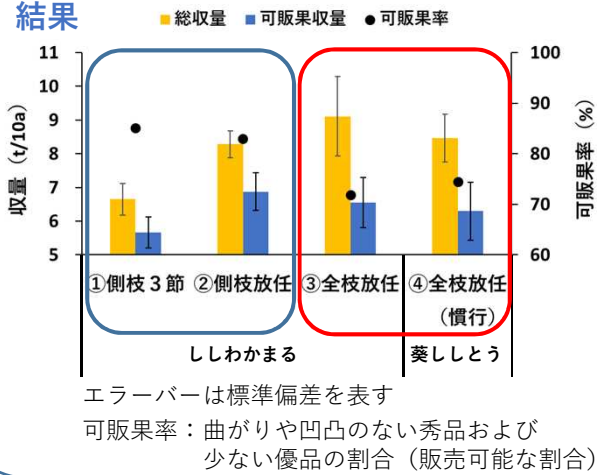
・側枝を放任

③、④全枝放任



フラワーネットで固定し、
 主枝および側枝は放任

結果



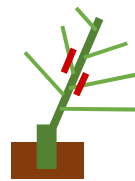
全枝放任で総収量が多いが、
 可販果率が低い

主枝を4本に誘引することで可販果率が向上
 側枝を放任とすることで
 慣行と同等以上の可販果収量が得られた

側枝の仕立て方法の検討

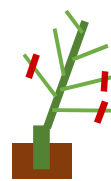
供試品種：‘ししわかまる’
 耕種概要：2023年4月17日定植
 畝幅160cm 株間70cm
 施肥：基肥 有機配合 20kgN/10a
 追肥 H-CDU 40kgN/10aを6月下旬に施用
 収穫期間：2023年5月23日～10月30日

②間引き



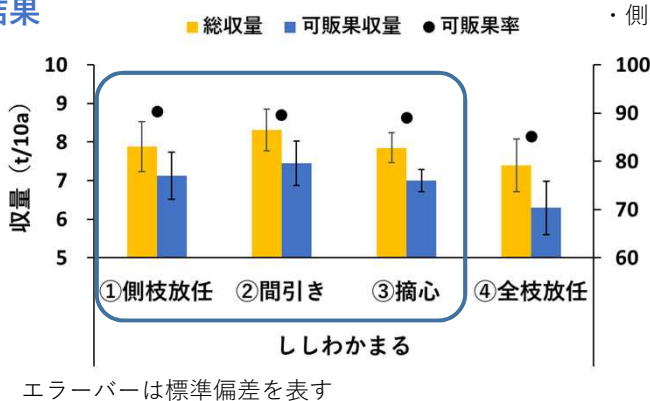
4本の主枝を上から紐で吊り上げ、
 ・側枝の本数を1/2に整枝

③摘心



・側枝を長さ40cmで摘心

結果



側枝の仕立て方法による
 収量性の差はみられなかった



側枝の仕立て方法は最も簡易な
 側枝放任が適している

まとめ

‘ししわかまる’の主枝を誘引することで可販果率が向上し、側枝を放任することで、慣行の‘葵ししとう’と同等以上の収量が得られました。今後は仕立てや収穫に要する時間と資材費を算出し、現場に適した栽培管理体系を確立します。